

2016年5月6日

#### 第4回 African Regional Conference on Irrigation and Drainage で発表しました。

2016年4月26日から28日にかけて、エジプト国アスワン市において、第4回 African Regional Conference on Irrigation and Drainage (ARCID)が開催されました。本国際会議は、The Egyptian National Committee on Irrigation and Drainage (ENCID)により組織され、当社も関わりのある International Commission on Irrigation and Drainage (ICID)や、エジプト国水資源灌漑省およびエジプト国立水研究所が共催となって開催されました。本会議にはエジプト国水資源灌漑大臣をはじめ、インド国水資源灌漑大臣等の来賓もありました。

第4回となるARCIDでは、”Agricultural Land and Water Management for Sustainability under Climate Variability”というメインテーマが掲げられ、エジプト国をはじめ、アフリカ諸国で取り組まれている灌漑開発や研究について60を超える発表がなされ、活発な議論が交わされました。当社は、Research, Extension Services and Capacity Development という分科会で、JICAの技術協力プロジェクトとして当社がザンビア国で実施している小規模灌漑開発プロジェクト（Technical Cooperation Project on Community-Based Smallholder Irrigation: T-COBSI）の事例を発表しました。本会議の開会式直後のキースピーチでは、アフリカにおける小規模灌漑の意義が過小評価されているというポイントも指摘されておりましたので、当社の発表はこの点に添える内容として、現場での小規模灌漑普及の実践状況を報告できたと思います。

会場からは、小規模灌漑普及による焼畑農業へのインパクト、環境配慮や農業専門家の役割等について質問が出されました。ザンビア国での小規模灌漑普及は、伝統的な焼畑農業（チテメネ）を縮小させる、すなわち森林資源減少に歯止めをかけるインパクトがあることが確認されています。また、小規模灌漑で資材調達のために樹木の伐採も行いますが、これら資材は毎年リサイクルして使うため、資源収奪にはあたりません。さらに、小規模灌漑で耕地利用率が高まることから土壌肥沃度保全のための堆肥施用等、農業専門家の役割も重要です。会場からの質問に添えて、こういった小規模灌漑の知見を多くの参加者と共有することができました。当社の現場経験が、他国の方々にも参考になれば幸いです。



ハイアスワンダム：4<sup>th</sup> ARCID の開催地となったアスワンのシンボル



4<sup>th</sup> ARCID の会場：ISIS ISLAND ホテル。ナイル川の中州に位置する。



4<sup>th</sup> ARCID の開会式：中央がエジプト国水資源灌漑大臣



開会式の様子：アフリカ諸国をはじめ多くの国からの参加があった。



エジプト国水資源灌漑省 Ragab 副大臣（中央）と記念撮影



分科会で発表する畑カイロ連絡事務所長



当社は Research, Extension Services and Capacity Development 分科会で、JICA 委託業務のザンビア国小規模灌漑開発プロジェクトについて発表しました。